

福山市小中一貫教育推進懇話会（第2回）会議録

日 時 2012年（平成24年）8月10日（金）
午後13時30分

場 所 福山市役所 東棟3階 304会議室

出席委員 10名

出席又は欠席	名 前
出席	小 原 友 行
出席	貝 田 哲 郎
出席	小 森 密 寿
出席	山 崎 俊 章
出席	飛 田 洋 悟
出席	小 野 方 資
出席	松 本 茂 太 郎
出席	藤 本 和 士
出席	小 野 明 人
出席	岡 本 康 成

会議に出席した事務局職員

教育長	吉 川 信 政
管理部長	石 井 康 夫
学校教育部長	三 好 雅 章
学校教育部参与	石 口 智 志
社会教育部長	山 口 善 弘
総務課長	西 頭 智 彦
学事課長	宮 本 浩 嗣
指導課長	伊 原 秀 夫
指導課教科指導担当課長	宇 根 一 成
社会教育振興課長	門 村 吉 晴

- 1 開会
・吉川教育長挨拶

- 2 報告・説明
(1) 第1回懇話会の確認
① 協議内容(第1回懇話会 意見集約)
② 委員から出された質問への回答
・学力分析
・生活習慣等に関する意識
(2) 小中一貫教育に係る取組状況
① 中学校区の主な取組
② 教職員研修の状況
(3) 他都市の小中一貫教育の特色

《質疑等》

- (小原座長) 他都市の小中一貫教育の特色について、福山市と同規模程度の都市はどこですか。
- (教科指導担当課長) 同じ中核市として姫路市が該当します。
- (小原座長) 秋田市や福井市は特区等指定を受けていませんが、独自に全学年分の調査問題を作成し、学力向上を図っています。児童生徒の学力分布についてですが、国語の活用型は良い結果が出ていると思います。算数・数学について、知識に関する問題であるA問題は良いと思いますが、活用に関する問題であるB問題の結果が少し左側に寄っていますので、福山市の子どもは国語よりも数学が苦手ではないかと思います。また、全国や県と同様にA問題よりB問題に課題があり、2010年度のB問題の結果にもありますが、全体に占める正答数の低い割合が高くなっていますね。正答数が0～4問の割合を減らして、山型を形成するように取り組む必要があると思います。
また、A問題とB問題では測定していない関心・意欲・態度等の学習意欲に関する問題や生活習慣等に関する意識調査の結果はどうですか。A問題もB問題も高い結果になっている秋田市や福井市では、関心・意欲・態度など、自分が社会に貢献できているという意識が低いことこそが課題であると捉えているようです。
- (小野_芳委員) 2010年度の算数の活用問題について、正答数が多い割合の1番のピークが4問であり、次に7問となっていますので、正答数が5、6問の割合が少なくなっていますね。全体的な傾向としてはフタコブラクダ型ではないですが、数学の活用部分だけに関しては小学校、中学校でフタコブ型の傾向が見られるのではないかと思います。
- (小原座長) 2009年度は山型が右寄りですが、2010年度は山型が左側に少し寄っていますね。子どもの学習意欲は小学校6年や中学校3年で急に低くなるのではないかと思います。小学校の中学年あたりでしっかりと育てることができていないため、小学校6年や中学校3年での学力調査で山型が左寄りになっている要因の1つとなっているのではないのでしょうか。
- (教科指導担当課長) 昨年度は全国学力学習状況調査が実施されませんでした。広島県の基礎・基本

定着状況調査において、小学校3・4年生での学習の定着に課題があるという結果となりました。3・4年生での学習内容が分からないまま進級し、課題が固定化してしまうことに繋がっているのではないかと考えております。

3 協議

テーマ「福山の誇り・福山人としての誇り」について

《質疑等》

(小野^方委員)

福山の資源という資料を見ていますが、福山市は非常に住みやすい都市だと感じています。わたしは大学という学生が集まってくる場所での勤務をしており、教育学部では大学入門ゼミという大学1年生を対象にしたゼミがあります。そのゼミでは半年間で学生が学んだ内容をグループ発表していますが、福山出身の学生も多く、堂に入った発表をしていました。重要なことは知識を活用する段階にどのように進むかということであると思います。座長から関心・意欲・態度について話がありましたが、大学入学のために知識を蓄える学生は多くいますが、その知識を社会や職場に役立てるためにどのように活用するかという点に課題があります。

福山の子ども達に抱いて欲しい心についてですが、知識を活用して社会に貢献していく心というものを小中学校で魅力的に育むことが大切ではないかと思えます。

(山崎委員)

学校長として子ども達の現場にいるという立場で意見を述べさせていただきますが、以前荒れのある学校で勤務したことがありました。子ども達が自分の学校を誇りに思えず、児童会の活動をするにあたって個人的な事しか考えないため、全校生徒が協力して取り組むことができませんでした。その改善のために、学校行事等では常に自分の学校を誇りに思えるように目標を設定し、取り組みました。その結果、児童会の選挙等において、子ども達が自ら学校を良くしていくためのスローガンを掲げるようになりました。それと同時に積極的に行事に協力し、その取組内容を評価できるようになると、子ども達は自分の学校を誇りに思うようになりました。子ども達が自らの学校を誇りに思えるように働きかけることが大切なのではないかと思えます。

(小原座長)

児童生徒の生活習慣等に係る意識調査について、広島県と比較して数値が低い項目が自己実現力・自己効力感です。中学校ではそれほどではありませんが、小学校では「将来の夢や目標を持っている」「自分には良いところがある」「自分の良さは周囲から認められている」という項目が低い傾向にあります。小学校の子どもたちには「将来の夢や目標を持っている」という項目での「まったくあてはまらない」という回答割合を無くして欲しいと思います。伸ばしたい力と同時に乗り越えなければならない課題として自己実現力や自己効力感があるのではないのでしょうか。

(飛田委員)

福山人としての誇りということですが、わたしも大学時代に福山を紹介する際に、福山についての知識が無く苦労しました。

現在学校で取り組んでいることは、自分の学校出身者で、在校生が喜ぶような先輩を探そうということに取り組んでいます。1年目には、小惑星探査機はやぶさの軌道を計算された方が出身者にいらっしゃいましたので、その方を招こうと計画しました。本人は亡くなられていましたが、1年目はその上司に來校していただき、講演していただきました。生徒は非常に喜び、積極的に質問をしていました。2年目はプロ野球のソフトバンクで打撃コーチをしている方をお願いしました。

地元福山でも企業経営者の方は多くいらっしゃると思いますので、福山出身で活

躍されている方を子ども達に紹介し、福山を誇りに感じさせることが大切であると思います。

(小原座長) 子ども達が目標を持てるような人に出会わせ、福山の良さを発信できるような人を育てていくことが大事なことでないでしょうか。他都市の多くの小中一貫教育に共通していることが故郷に関する学習です。福山が教室であり、福山の教材が教科書であり、福山の人々がもう1人の先生であるという考え方も大切になってくるのではないのでしょうか。

(藤本委員) わたしも福山市は非常に住みやすい所だと感じています。その理由としては先生の影響があります。小学校の恩師から遊びをとおして福山について教えていただき、福山に愛着を持つようになりました。義務教育9年間での小中一貫教育をとおして地域を愛することができないと、子ども達は福山に留まることはないと思います。他都市でも行われている故郷に関する学習に取り組み、地域への愛着を育てて欲しいと思います。

環境を含めて、地元を大切にするとということを教育にも取り入れ、地域と繋がった学校づくりが大切だと思いますが、わたしの幼かった頃と比較すると少し学校と地域が離れているように感じられます。福山らしさや良さの発見のためには、子ども達がしっかりと福山のことを知らないといけないのではないかと思います。

(小原座長) 昨年、中国新聞で実施された新聞コンクールで福山市の子ども達が最優秀賞を受賞していましたね。福山のまちを丹念に調べ、ものづくり等の新聞記事を切り貼りして新聞を作っていました。福山のまち自体が教材になっていると感じました。故郷の良いところやまちづくりを取り上げて、学校と地域が繋がれば、地域の方は子ども達のもう1人の先生になっていけると思います。

(小野_明委員) 退職された校長先生が、校歌の歌詞に出てくる地元の山が良く分からないという子ども達の状況を受けて、山の位置をはっきりさせ、子ども達が登れるように同級生や住民を巻き込みながら取り組まれたと伺っています。

また、芦田町には動物園がありますので、そこにある池をきれいにしようとボランティアの協力をいただき、バラ花壇を設置しました。

それぞれの地域に歴史的なものがありますが、子ども達が地元へ戻ってこないという問題があります。地元を愛する心を育む取組があれば、都会に出て行っても、地元へ戻りたいと考える基礎になるのではないのでしょうか。また、様々な取組に協力していただける人は多いですが、大人が福山の地域を愛して積極的に活動するなかで良い人間関係が築けるような地域活動が必要であると思います。

(小原座長) 故郷に誇りを持つということは生涯生きていく学力であると思います。地元を愛する心を育む取組は、故郷に誇りを持つことの基礎を担うことになると思います。

(小野_明委員) 福山市は中小企業が多く存在しており、備後緋の歴史や畳表等の日本文化の基礎的な内容について子ども達が知っているということも大切だと思います。

(小原座長) 9年間の小中一貫教育のカリキュラムにどのように含めるかが大切になり、故郷意識を育めるようなカリキュラムを小学校の段階から中学校の出口までで育てていけるような取組は福山市でも取り組まれているのではないのでしょうか。備後緋などは福山の学校では様々に取り扱われているように思いますが、系統性を持った学習を行うことで、故郷意識に繋がれば良いと思います。ただ、そのためには地域の大人の協力が必要であると思います。

(小野^明委員) 備後絛は現在、ほとんど消えています、今の企業の基礎や柱になっていると思います。

(小森委員) 昨年、全国からPTAの方が集まる研究大会が広島県内でありました。福山でも大学を借り受けて分科会を実施しました。一昨年は千葉で大会が開催され、福山を紹介するPRタイムがありました。日本地図から広島県へ段々と縮小して福山市を示し、当時NHKの大河ドラマ「龍馬伝」で、いろは丸事件が放送されていた頃でしたので、龍馬に扮装してPRを行いました。

どのように福山市を説明すれば周囲に分かりやすいかということを考えると、教育長も言われていますが、ばらと教育のまちという言葉をよく使っています。他にも説明すべき内容があったのではないかと思いますし、今日の資料があればもう少し詳しい福山の説明ができたのではないかなと思います。

故郷についてですが、住宅団地の中にわたしが所属する学校があります。そこで生まれ育った子ども達にとって、その地は故郷であることに変わりはないと思います。卒業式や入学式のあいさつの中に、「故郷」という言葉を必ず入れることで、福山を意識してもらえればと思います。そして、福山がどのような所であるかという知識を持ってもらうことも必要であると思いますし、持ってほしいと思います。

福山市全体は難しいと思いますので、まずは自分の住む地域について、中学校区を中心として子ども達に教えるということが福山に誇りを持ってもらう一つのきっかけになるのではないかと思います。

(小原座長) 今年から坪生小学校へ指導に伺っていますが、地域の郷土史家がすごいネットワークを持っておられ、子ども達と立派な冊子を作成されていました。地域コミュニティーの強く残っている地域であると感じましたね。

(松本委員) ふくやま知っとる検定という、2006年に福山市観光ビジョンにおいて市のことを知ってもらおうということで、本を作成しました。福山市と観光協会が2007年から5回の検定試験を行っています。1級から3級があり、1回目からのトータルで2300人くらいが受験をされています。学校単位では千年中学校や誠之館高校が受験されていますが、今後福山を担う小中学生にもっと知ってもらうために学校単位で受験してもらえれば、福山のことを分かってもらえるのではないかと思います。

(小原座長) それは親子でも楽しめる勉強になりそうですね。今、「おいしい広島」ということが言われていますが、広島県は学力調査もおいしい状況で、もう少し良ければ、上位3位に入るくらいです。福山は宣伝されていないだけで、むしろナンバーワンやオンリーワンが多く、知っとる検定やクイズになりそうな内容が多くあるように感じます。学校での推薦ではなく、家庭と一体となった教育として、各家庭にかならずそのようなものがあると面白いと思います。

(岡本委員) 市の子ども会で今年54回になる子ども文化祭を開催しています。その中で、福山の無形文化財である鞆の鯛網、高島はね踊りなど、各地域の伝統芸能を継承するために取り組んでいます。地元の指導してくださる地域の人から子ども達が教わって発表する場になっているのですが、やはり地域のつながりから郷土愛というものが生まれると思います。

先ほどからオンリーワンといった福山の企業が出ていますが、ほんとうに福山の中小企業にはすばらしい企業がありますので、そのようなものも子ども達の教育に取り入れてもらえれば、子ども達もしっかりと自信が持てるようになるのではないかと思います。

(小原座長) 福山にはそのように思える財産が多いということですね。それをうまく活用していく一貫教育を考える必要がありますね。

(貝田委員) わたしが一番大きな影響を受けたのが学校の先生でした。戦時中、戦後の困難な中で、熱心に指導していただきました。

いつもわたし達ができる仕事というのは、身近にいる地域の子も達をどのように育むかであると思います。地域やその家庭に生まれていますが、自分の家庭の歴史も知らないような子ども達が育ってきており、大変なひずみがあると感じています。

子ども達がいつでも帰ってこられるような地域づくり、まちづくりが大切なのではないかと思います。

協働のまちづくり事業が目に見えているというのが、福山市の誇りであると思います。全国自治会連合会でも、まちづくりについての情報交換を行っていますが、福山市は現在7年目になり、第二次福山市協働のまちづくり行動計画を基本として取り組んでいます。自分たちの地域の子も達は自分たちで育てるという考えで、子ども達の居場所づくりに取り組み、今後の取組モデルになるのではないかと感じています。

福山市は協働のまちづくりやキーワード事業を含め全国に先駆けて取り組んでおり、誇りであると思いますし、福山市は歴史教育など地域資源の多い地域ですので、しっかりと子ども達に伝えるためにも、まずは自分の足元を見つめることが大切だと思います。

(小原座長) 福山葦陽高校が新聞活用教育を始めた時に、当時の校長先生が福山学や備後学を根付かせたいと言われていました。それだけ福山には学になるような素材が地域にあるのだと思います。そのような意味では、伝えきれていないものや伝えていないものとして、先ほどまでに出てきた素材をまとめると福山学になるのではないかと思います。社会教育の分野での取組は何か行っているのですか。福山の研究が学校教育に取り入れられることも良いのではないかと思います。

(教育長) 今、社会教育のなかで福山学のような取組は行っていませんが、福山市立大学の田淵先生が中心になって福山にある資源を掘り起こそうと取り組まれています。例えば、福山市内だけでなく世界的に活躍している人を知ろうということから、リーデンローズの設計者の講演会を実施したこともあります。また、平櫛田中について市役所で講演を実施していただいたところです。

学校ではそこまでの取組はできておりませんが、小学校3・4年生の社会科や総合的な学習の中で地域のことを学習しています。

また、新涯小学校ではくわいを中心にしながら食育に取り組んでいます。全体的な取組ではありませんが、1つ1つのトピック的な取組が行われているところです。

(小原座長) 専門家が作った教材ではなく、故郷の宝を子ども達が発掘していくことが大切だと思います。かつて日吉台小学校で教えていたとき、日吉台地区には祭もありませんでした。祭も無い中でどのように地域学習を進めていったらよいかという質問がありました。地域コミュニティーの祭を作り出し、自分たちで地域を作り出すという学習を行えば、それは地域教材を活かす以上に良い学びではないかと助言しました。わたしの福山市の印象は、非常に地元愛が強いのと同時に、待っている印象があります。むしろ、地域を作っていく、作っていけるような人材が必要になるのではないかと思います。

東日本大震災の応急仮設住宅地にいる被災者は買い物に出かけることも難しいで

すが、コンビニが車で移動することで助けています。困っている時にどのようにしたら乗り越えられるのかということを作り上げることができる力を福山では掘り下げて良いのではないのでしょうか。地域の良さを学ぶだけでなく、良さを作っていく人材、地域リーダーのようなものも福山の地域の実態に応じて考えてみる良いのではないのでしょうか。

(小野^方委員)

開かれた故郷の誇りについて考えると、学校が目標を持ち、落ち着いてくると、学校に積極的に関わってくる生徒が増えると山崎委員が述べられていましたが、このことは福山市立大学の2年生も同じように見えました。学芸会や体育関係の連合会を立ち上げて予算配分を学生が行い、この学校で自分たちはやっていくんだという意識を感じて、積極的な1期生だなと感じました。良くしていこうという積極的な力が育つためにはしっかりと知って、学び、そのうえで地域をより良くしていく力が誇りになるのではないかと思います。

(小原座長)

資料にもありますが、「福山で育つ子どもたちになって欲しい人」や「福山で育つ子どもたちに抱いて欲しい心」についてですが、呉市では、子どもは挨拶ができる、掃除ができる、時間が守れると掲げられています。これは教育長が全国の大会等で自信を持って伝えることができ、学校や地域も一緒に取り組める目標として設定されたそうです。福山市の教育長がどこへ行っても、自信を持って福山の子どもを伝えることができるようなものを目指すことが小中一貫教育であると思います。学校長はそれぞれが目指す児童・生徒像を掲げられていると思いますが、目指す子ども像について意見がありましたらお願いします。

(藤本委員)

自分の子どもにも言っていることですが、子どもにはルールを守って欲しいと思います。

(小原座長)

福山の子ども達はルールが守れる、規範意識ですね。更に、そのルールを自分で作って、自分でコントロールできると素晴らしいと思います。

(小野^明委員)

いじめの問題が世間でも話題になっていますが、人間形成に一番の問題があると思います。クラス内にはハンディキャップのある子どもも含めて様々な者がいます。人の話をしっかり聞いて答えるというコミュニケーション能力を大切にすることで、ハンディキャップについて理解ができていない子どもに対しても周囲の子ども達が教え、対応や配慮ができるような環境になれば、後にコミュニティーを作ったときお互いを思いやることのできる素晴らしい地域になるのではないかと思います。

(小原座長)

先ほど、コミュニケーションやルールについての意見、コラボレーションという意見も出てきました。呉市の挨拶、掃除、時間を守れるという目標は誰にでも分かりやすい目標になっていると思います。

(松本委員)

親の背中を見て子どもは育つと言いますが、家庭の生活がしっかりされていれば、子どもは良く見て育っていくと思います。また家庭外では、小学生や中学生が3人に1人は挨拶をしてくれますし、何度も声をかけていたら段々と挨拶をしてくれるようになりました。やはり、周囲が挨拶を行いやすい雰囲気ですと、少しずつですが挨拶ができるようになるのではないのでしょうか。

(小原座長)

挨拶はコミュニケーションの基本だと思います。ある中学校では、最初、面と向かって挨拶していたものが、段々と頭を下げて言葉を発するようになり、最終的には追いかけて挨拶をするようになったと聞いたことがあります。

(貝田委員)

ありがとうという感謝の気持ちが必要ではないかと思います。今生かされているどのようなものにも役割があると考えています。最近の子どもたちは、ゴミが見えない子や見えても拾わない子が増えてきているのではないかと感じています。また、親や先祖の方への感謝の気持ちが案外欠けてきているのではないかと思います。もう一度日本人として世界に誇れるものは何かということ見直さなければならぬのではないのでしょうか。福山市は温暖で生活しやすい生活環境だと思えますが、その開祖は水野勝成であるということはあまり知られていません。今住んでいる家や地域も先人たちの財産であり、もう一度足元を見つめることが大人の責任ではないかと思います。

(山崎委員)

小中一貫教育の取組に係って、7月の初めに姫路市の白鷺小・中学校へ行ってきました。姫路駅や姫路城のすぐ近くで、歓楽街などがある街中が学区になっているのですが、非常に落ち着いた学校でした。校長先生に学校を案内していただいたときに、学校の自慢ということで見せていただいた場所が靴箱でした。非常に整然と靴が並べられており、他の学校から入学した子どもも、その後自分自身で志を抱くようになるつながりを生み出していると感じました。掃除でも廊下だけでなく、コンクリートの上まで雑巾がけをするなど、子ども達の一生懸命さを感じたところです。

学校が方向性を決めて取り組むだけでなく、子ども達が取組を深めていくような教育をされているのだと思います。今日、他の委員からいただいた意見をどのように取り入れるかが学校の課題だと思っています。

(小原座長)

学力の問題点や課題の改善策として、病気になったら風邪薬を飲むように、弱い部分を治療する方法は全国どこでも行っています。全国学力調査の正答率の低い問題を分析し、改善のための指導方法を考えて実施するという取組は既に行われていると思います。このような方法でも一定の効果がありますが、基本的な学力の向上には繋がらないと思います。

小中一貫教育は風邪をひいているから薬を飲ませるような取組ではなく、風邪をひかないような基礎体力のある体をつくる取組だと思います。そのような意味では故郷の意識や良さを伝えていく、故郷の中で自分の目標や夢を見つけさせていく、コミュニケーションをとって人と関わっていく力を育てていくことは、学力と直接のつながりはありませんが、基礎体力のある体づくりのための取組になると思います。

本日、委員の皆様からいただいた意見としては、学習意欲というものは大切な基礎体力づくりであり、大人になって社会へ出た時に生きてくる力なのではないかと思います。先日の講演会でわたしは大切にすべき3つの「C」について話しました。1つ目がコミュニケーション、2つ目がコラボレーションです。この2つは他の委員からも意見が出たところですが、今日の資料に掲載されている福山のナンバーワン、ナンバーワンというものは、福山市が広島県内でもものづくりが顕著なまちではないかと思います。

そのような意味では、創造していくというクリエイションも大事ではないでしょうか。とりわけ福山の子ども達に新しいものを作り出していく、地域のコミュニティーを作り出していくという意味での「C」があるのではないかと思います。講演で伝えさせていただきました。

今回の懇話会で更にもう1つの「C」を入れたいと考えていました。それは選択するという意味のチョイス、チューズングです。福山の子ども達はどこかで自分の将来設計をしながら、決断していける力を身に付けておくと、全国に誇れる福山の子ども達を発信していけるのではないのでしょうか。